



あ お ば だ よ り



Vol. 43
情報管理広報委員会

えらく、大きな題名になってしまいましたが、もう、一昨年前の話になりますが、リフレクティングとの出会いがありました。「オープンダイアログ」とは、ムーミンで有名な北欧の国フィンランドの小さな町で生まれた精神の困難を抱えた患者さんが家族とともに、専門家チームと対話を重ねることで、危機的状況を抜け出て快方に向かうというものです。そのオープンダイアログの基軸となるのが、リフレクティングという「会話についての会話」という方法です。精神科での治療は関係性が担う側面が大きく、ということはスタッフのありようによって、患者さんの治療の良し悪しが大きく影響を受けるということであり、いかに自分自身が成長できるかということをおもっていました。そんな折に、熊本大学の大学院、人文社会文化科学研究部の矢原隆行教授との有難い繋がりをいただきました。矢原先生はリフレクティングの国内第一人者のひとりと目され、研究だけではなく実践を積み重ねてこられている先生です。まずは矢原先生の著書「リフレクティングー会話についての会話という方法」というとても難しい本(そんな分厚い本ではないのですが・・・)を読み始めることから始まりました。理事長はじめ、周囲へ声をかけ、数名で夜に熊大の一室で行われている院生の方々の勉強会へ混ぜていただきました(熊大の黒髪キャンパスは私の学び舎でもあり、懐かしさと新鮮な空気が嬉しくもありました)。福岡で矢原先生の講演があると聞いては、「まずは、直接お話を聞いてみなければ」と追っかけて行き、拝聴いたしました。これが矢原先生と初めてご挨拶をさせていただいた時です。それから昨年度は、院内にもスタッフに日勤の業務が終わった夕方の時間ですが、声をかけると、総院長先生や院長先生、沢山のスタッフが、「何か分からないけれども、日頃の実践の何かを変えよう、変えたい」と集まっていた頂き、勉強を続けてきました。すると、なんと矢原先生が「あおば病院の事も知りたい」と当院まで足を運んでくださり、職員へ向けた研修をして頂けるということでありがたい機会に恵まれました。外部の関心のおありになる施設さんにも呼びかけ、2月8日にリフレクティング研修が当院にて行われました。

さらには、丁度、熊大の黒髪キャンパスで夜に院生の方々に混じって勉強を行っておりました時期を同じくして、熊本市の北の方にあります桜が丘病院さんでは、病院を上げて、病院全体の改革や地域移行の推進と機能分化の強化を目指して、リフレクティング研修プロジェクトが始まっていました。プロジェクトが始まり1年が経過した本年度、第2期生として、外部メンバーとして当院から私含めて3名のスタッフを加えていただき、矢原先生と共に、桜が丘病院のスタッフさん24名、他に4施設1名ずつのスタッフ、ピアの方1名で、今後2年間に渡って、リフレクティングの効果の詳細を明らかにすると共に熊本県内にもリフレクティング文化の形成・醸成を目指し、スタートしていっているところです。また、くまもとリフレクティング研究会という研究会も立ち上がりまして、世話人ということで当院の松本PSWがお世話をさせていただきます。熊本にリフレクティングが広められるか、これからの精神科医療を変えられるか。先日4月27日に、くまもとリフレクティング研究会主催の第2回リフレクティングセミナーが、熊本県総合福祉センターで開催され、100名以上の方の参加で大盛況に終わりました。当院からも、わずかながらに声をかけさせてもらい、宇城地域家族会連合会のみなさんにも足を運んでいただき、激励のお言葉をいただきました。

矢原先生のお話を聞くと、なぜだか私の涙腺が緩んでしまうのです。大学院の授業の中にも、1日だけ入らせていただき話を拝聴したのですが、その時も涙が。この涙は、何なのだろうと考えてみますと、『本当の対話への出会い』、日常の中にコミュニケーションは溢れていますが、みなさんは対話の心地よさ感じていますか?もしかすると、20年ほど精神科医療で働いてきた私ですが、知らぬ間に私自身がホスピタリズムとなり、諦めていた感覚に力を添えられる感じ「声を上げていいのだ」、また「大事にされている感覚」を思い出させてもらえる場だからなのかもしれません。私達が変わらなければ、患者さんにより医療を届けられない。もっともっと可能性があるのではと思わされている今日この頃です。



“当院に於けるリフレクティングの取り組みについて”

本年度は、「リフレクティング研究会」という会議を立ち上げ、黒澤医師を筆頭に、くまもとリフレクティング研究会の取り組みの状況や当院での普及・実践、またスタッフへの勉強会の企画などを行いながら、様々な場面での実践や研究を行って行きたいと考えております。すでに、スタッフ間のミーティングにおいて、また患者さん、ご家族との対話の場として、取り組みを行っているところです。専門家を見せる、患者さんと対等な立場となるためには、欠かせない要素だと思いますし、そのためには、このような広報誌での発信や、またオープンに様々な方々に参加していただき、本当の対話ができる風土、対話のここちよさを患者さんはもちろんの事、そのご家族、その友達や関係者、地域の方々など、当院のスタッフもですが、沢山の皆さんに感じていただけることを願っています。

〈心理科 科長 : 上野 麻実〉



第17回 くませいフェスタに参加しました

去る6月6日パークドーム熊本にて、第17回くませいフェスタが開催されました。「新元号 気持ちも新たに！くませいフェスタ」のスローガンの下、当院からも13名が参加。懸命に頑張った結果、我々赤グループは今年も優勝の栄冠を手にする事が出来ました。

気温、気持ち含めて、とても熱(暑?)かった一日でした。

〈精神保健福祉士 : 渕上 祐規〉



ふれあいピックに参加しました

令和元年6月20日(木)に第26回ふれあいピック(熊本県地域精神障がい者スポーツレク大会)がパークドームで開催されました。水俣や天草、阿蘇からも多数の仲間たちが参加しました。全体の参加者数は1000人を超え、あおば病院のある宇城地区は総勢約150名参加しました。惜しくも優勝はできませんでしたが、一つの目標に向かって頑張りました。くまモンも応援に来てくれました。ボランティアでは九州ルーテル学院大学の学生さんや陸上自衛隊北熊本駐屯地曹友会などたくさんの方にご協力いただきました。

宇城地区では毎年おいしいおかずを作ってきていただくボランティアの方がいらっしゃいます。本当に感謝です。

〈デイケアセンター 係長 : 桐原 聡〉



ふとした事から写真家と出会い、四季折々の写真を当院へ提供して頂いております。日々、自然を目の当たりにしてはいるものの、写真で見ると、改めて自然が造りだす景色に心洗われる様です。今後、広報誌をご覧になられる皆様へも周辺の自然を紹介して参ります。ご期待下さいませ。

今回、掲載を快く承諾して頂いた写真家さん、ありがとうございます m () m



病院の理念

- 「ひと」 その人らしさを大切に
- 「こころ」 こころのリハビリを通して
- 「和」 地域に和をひろげます

病院の基本方針

- 一、人権の尊厳 ころを病む方々の「ひと」としての尊厳を何よりも尊重し、患者さんやご家族に、やさしさと思いやりの心で接します
- 一、人間的成熟 医療にかかわるプロとしての自覚と誇りを忘れず人間的成熟を目指し、たゆまぬ努力を続けます
- 一、チーム医療 全ての職種の職員は、それぞれの専門性と役割を果たすと共に互いに連携し合い、より質の高い医療サービスを提供します
- 一、地域社会との連携 地域との情報交換を密にし、予防と安らぎの場を提供しながら、社会復帰を通じた生活活動支援に積極的に取り組みます

病院所在地 & アクセスマップ



医療法人社団 明心会

あおば病院

精神科・心療内科・内科

〒869-0513

熊本県宇城市松橋町萩尾2037番地1

TEL : 0964-32-7772

FAX : 0964-32-7333

E-mail : aoba2120@lime.ocn.ne.jp

URL : http://www.aoba-hospital.jp